

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	教授	橘 廣
最終学歴	学 位	専門分野
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程 単位取得満期退学	教育学修士	教育心理学 発達神経心理学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

脳の発達をふまえた効果的な教育、心身の健康に関わる知識・技能を身につけた指導者の養成、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を基盤とした社会から信頼される全人格的な教育を目標とする。また学生一人ひとりの可能性の芽を大切に育て、潜在的な才能や能力を引き出す教育を目標とする。

(計画)

学生の能動的な学習につながるアクティブ・ラーニング手法を取り入れた授業を積極的に行う。難解な理論も楽しみながら理解し、日常生活に効果的に活かせるよう授業を工夫していきたい。また授業評価アンケートの結果をふまえ「わかりやすい授業」をこころがけたい。基本的な事柄を発展させ、創造性を育む授業を行う。演習では、一人ひとりの学生に真摯に向き合い、成長が実感できるよう支援する。心理・教育に関する研究を中心に調査・実験・研究発表を行う中で、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高められるよう教育支援をする。

○担当科目（前期・後期）

（前期）発達心理学、教育心理学、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）学習心理学、教育心理学実験実習、心理学研究法、社会心理学実験実習、教職実践演習、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

授業では受講者の関心や理解度を高めるため、ビデオ、DVD、キャラクターを使用した小道具などの教材を積極的に導入した。またパワーポイントを用いた授業、体験型学習（心理検査、調査、観察、光イメージング脳機能測定装置を用いた実験体験を含む実験）の導入、次回講義内容についてのレポートによる動機づけと授業設計によって、教育効果をあげることができた。アクティブ・ラーニング手法を取り入れた授業を積極的に行うようこころがけた。演習では、心理・教育に関する研究を中心に調査・実験・研究発表を行う中で、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高められるよう教育支援をした。また就職活動に必要な筆記試験や面接試験対策指導も希望者に行った。

○作成した教科書・教材

「発達心理学」の参考書として、『子どもの手指活動と発達』（単著、三恵社）を作成した。

また講義内容の理解を促し関心をもって受講できるような情報を取り入れまとめた補助教材は毎回の授業で配布している。

○自己評価

学生の授業に対する関心や理解度を高めるために、積極的にさまざまな工夫をし、当初の目標・計画については、概ね目標を達成することができた。授業評価アンケート結果については、受講

者数に制限のある「教育心理学実験実習」及び「社会心理学実験実習」ではアンケートのすべての設問に高評価が得られ、ほとんどの受講者がグループで協力して授業外で時間をかけて事前事後学習を行っており、主体的、対話的で深い学びを促すことができたのではないかと思われる。しかし、受講者の多い「教育心理学」「発達心理学」では、授業内容が理解できずに興味を持てない学生と、とても楽しい授業・これからの生活に役立つ授業と記載したり高評価をした学生との二極化が顕著となった。具体例を多く示し、イラストを用いたりクイズ形式にして説明し、体験学習を行い、できるだけわかりやすく能動的な学習ができるよう努力した点は、ある程度効果があったと思われる。私語についても特に問題はみられなかった。次年度は、わかりやすい授業をこころがけ、難解な理論も楽しみながら理解し、日常生活に効果的に活かせるよう授業を工夫していきたい。深い学びを引き起こすアクティブ・ラーニング手法を授業に取り入れ、受講者の能動的な学習や私語防止につながるよう努力したい。その他、認定心理士資格関連では、資格取得希望学生には個別指導を行う等、学生の資格取得を支援することができた。また国家資格の公認心理師資格関連では、情報収集に加えて、2019年度からの公認心理師資格取得に対応したカリキュラム再編に努力した。

II 研究活動

○研究課題

長期的課題

「脳の発達をふまえた教育及び脳の活性化： 前頭前野の発達を促す教育」

短期的課題

「前頭前野の活性化に関連する手指の遊びの検討」平成 27 年度～平成 30 年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 C 研究課題

○目標・計画

（目標）

他者の気持ちを思いやったり、感情や行動をコントロールしたり、意思決定を行うような、人間ならではの高次な思考活動に関係するのが、前頭前野である。前頭前野の機能に焦点をあてながら、問題行動を予防し、個人のもつ能力を十分に活かすためにはどのような教育が必要なのかを、発達神経心理学的アプローチにより検討することを目標とする。

（計画）

何かを創りだすことを目的に、他者とコミュニケーションをとりながら、手指を使った操作活動をするのが、前頭前野を活性化させ発達させるために効率のよい方法であることが、最近の脳科学研究により認められている。能動的創造的な手指の操作活動を中心に、操作性の高さと、脳の機能分化、一側化の程度との関係について、光イメージング脳機能測定装置を用いて検討する。研究成果については、学会発表や学術論文として公刊するなど、広く社会に情報発信する。

○2011 年 4 月から 2019 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・橘廣『子どもの手指活動と発達』三恵社、2019 年 3 月、152 頁

（学術論文）

- ・橘廣「ペグボード課題における手指の巧緻性と前頭前野の活動」『東邦学誌』第 47 巻、第 2 号、2018 年 12 月、109-117 頁
- ・橘廣・長谷川望・小島正憲「教職実践演習」を中心とした教職科目の検討：アクティブ・ラーニングの視点から」『東邦学誌』第 46 巻、第 1 号、2017 年 6 月、103-118 頁

- ・橘廣「手指の巧緻性と機能的左右非対称性」『東邦学誌』第44巻、第1号、2015年6月、101-109頁
- ・橘廣「幼児における利き手の発達と利き手の変更」『東邦学誌』第42巻、第2号、2013年12月、129-141頁
- ・橘廣「機能的左右非対称性の発達と操作性の高さ」『東邦学誌』第41巻、第3号（人間学部篇）、2012年12月、121-134頁
- ・橘廣「手の活動における機能的左右非対称性と操作性の高さ」『東邦学誌』第40巻、第1号、2011年6月、141-152頁

（学会発表）

- ・橘廣・橘春菜「乳児の手指活動における機能的左右非対称性と前頭前野の活動—近赤外線分光法を用いた検討—」日本発達心理学会第30回大会、早稲田大学、2019年3月、日本発達心理学会第30回大会発表論文集、183頁
- ・橘廣「手指活動における操作性の高さと前頭前野の活動—近赤外線分光法を用いた検討—」日本教育心理学会第59回総会、名古屋国際会議場、2017年10月、日本教育心理学会第59回総会発表論文集、191頁
- ・第31回国際心理学会議(ICP2016)、日本心理学会第80回大会 研究発表 2016年7月 Tachibana Hiro Relationship between functional asymmetry in manual activity and the level of manipulation : A NIRS study in pegboard performance, The 31st International Congress of Psychology, July 24-29, 2016, Yokohama, Japan, PACIFICO Yokohama
- ・橘廣 「手指活動における機能的左右非対称性と操作性の高さの関係性」日本発達心理学会第25回大会、京都大学、2014年3月、日本発達心理学会第25回大会発表論文集、375頁

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・平成27～30（2015～2018）年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究C（独立行政法人日本学術振興会）

研究課題名：「前頭前野の活性化に関連する手指の遊びの検討」

研究代表者：橘廣

交付総額：4,550,000円

○所属学会

日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本赤ちゃん学会、日本保育学会

○自己評価

科研費の助成を受けて研究成果をまとめ単著を出版することができた。また日本発達心理学会第30回大会で学会発表を行ったり学術論文として公刊し、当初の目標を達成することができた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

（目標）

教職課程再課程認定委員会委員長、教職支援センター副センター長、中高教職委員会副委員長として、全学教職課程委員会、教職支援センター運営委員会、中高教職課程委員会、教職課程再課程認定委員会の各委員会に積極的に関与し、大学運営に貢献する。

（計画）

全学教職課程委員会、中高教職課程委員会、教職支援センター運営委員会、教職課程再課程認定委員会では、教職課程全般に関わる業務を行い、教職課程の情報公開、実習関連支援、教員採用

「合格」に向けた複数の免許取得の支援や採用試験対策の支援などに努力する。また中高教職課程全般にわたり、履修カルテの指導、介護等体験実習・教育実習の支援を行うなど、積極的に活動し大学運営に貢献する。

また教職課程再課程認定委員会では、新学習指導要領と教職課程再編成に伴う再課程認定に向け、円滑に進むよう、大学運営に貢献する。

○学内委員等

全学教職課程委員会委員、中高教職課程委員会副委員長、教職課程再課程認定委員会委員長、教職支援センター運営委員会副委員長・副センター長

○自己評価

教職課程再課程認定委員会では、本学教職課程が2019年4月以降も教職課程を有するための再課程認定申請に係る提出書類作成、中高教職課程関係のとりまとめに貢献した。関連して、2019年度からの新教職課程カリキュラムの作成を行った。委員長として文部科学省からの指摘事項に対応し、関係者にご協力いただいたおかげで、再課程認定を受けることができた。全学教職課程委員会では教職課程の全般に関わる業務、教職支援センター運営委員会では副委員長・副センター長として、教職課程学生の教員採用試験全国公開模擬試験を含む教育活動支援や教員免許状更新講習の準備等に貢献し、更新講習では講師を務めた。また中高教職課程委員会では副委員長として、教育実習等の中高教職課程の全般に関わる業務に努力した。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

教員免許状更新講習必修領域の講師として、大学の地域社会への貢献に協力する。

(計画)

教員免許状更新講習必修領域の講師を担当し、子どもの発達に関する脳科学・心理学の最新の知見を取り入れた情報提供と体験学習から、教育現場の先生方に、現代的な教育の課題を考え、子どもたちへの理解を深めていただく。

○学会活動等

特になし

○地域連携・社会貢献等

愛知県単位互換制度による前期科目「発達心理学」、後期科目「学習心理学」担当

教員免許状更新講習必修領域「子どもの発達と脳科学・心理学」担当

高大連携授業講師 1・2年生講座「学習に役立つ心理学」

○自己評価

教員免許状更新講習、高大連携授業、愛知県単位互換制度の講師を担当し、地域社会に貢献した。今後はより多くの社会貢献ができるよう努力したい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

VI 総括

教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献に関して、概ね目標を達成することができたと思われるが、質、量ともに、より高いレベルで成果がでるよう努力することが今後の課題とされ

る。次年度の研究活動では、「前頭前野の活性化に関連する手指の遊びの検討」の研究課題を継続し、研究成果が出るよう努力したい。また、研究成果を生かし教育活動や社会貢献ができればと考える。

以 上